
交通局事業概要

令和8年4月16日

交通局

目次

1	交通局理事者一覧	3
2	組織及び職員数	4
3	交通事業のあらまし	5
4	市内の路線バスの状況	6
5	営業所の概要	7
6	運輸実績（令和6年度）	8
7	路線別の収支状況	9
8	川崎市バス事業 経営計画	11
9	令和8年度予算の概要	12
10	主な事業	13

1 交通局理事者一覧

(令和8年4月1日現在)

役 職 名	職 名	氏 名	内線電話
川崎市交通事業管理者・交通局長	事務職員	水 澤 邦 紀 (みずさわ くにのり)	47000
企画管理部長	事務職員	岩 間 尚 史 (いわま たかし)	47100
企画管理部庶務課長	事務職員	大 竹 保 則 (おおたけ やすのり)	47102
企画管理部職員課長	事務職員	石 井 崇 士 (いしい たかし)	47101
企画管理部職員課担当課長 企画管理部経営企画課担当課長兼務	事務職員	大 山 篤 (おおやま あつし)	47202
企画管理部経営企画課長	事務職員	中 村 恵 理 (なかむら えり)	47201
企画管理部経理課長	事務職員	塚 田 成 文 (つかだ のりふみ)	47301
自動車部長	事務職員	北 條 泰 広 (ほうじょう やすひろ)	47400
自動車部管理課長	事務職員	牛 島 祐 一 (うしじま ゆういち)	47401
自動車部運輸課長	事務職員	徳 原 英 幹 (とくはら ひでき)	47501
自動車部運輸課担当課長	技術職員	石 沢 成 史 (いしざわ なるふみ)	47502
自動車部安全・サービス課長	事務職員	榎 田 久 男 (えのきだ ひさお)	47801
自動車部塩浜営業所長	事務職員	張ヶ谷 務 (はりがや つとむ)	47771
自動車部鷺ヶ峰営業所長	事務職員	小 畑 昌 也 (おばた まさや)	47781

2 組織及び職員数

(令和8年4月1日現在)

川崎市交通事業管理者 (交通局長)

職員数 451人

内 訳：特別職 1人
 : 事務職員 95人 (一般事務職74人、運輸事務職21人)
 : 技術職員 38人 (車両技術職35人、建築職2人、電気職1人)
 : 技能職員 314人 (自動車運転手)
 : 業務職員 3人

1人

企画管理部

1人

庶務課

8人

職員課

7人

経営企画課

7人

経理課

11人

自動車部

1人

管理課

10人

運輸課

17人

安全・サービス課

12人

塩浜営業所

178人

鷲ヶ峰営業所

198人

上平間営業所

井田営業所

乗車券発売所

川崎乗車券発売所

※「かわさき きたテラス」(JR川崎駅北口)に設置

溝口乗車券発売所

※「ノクティプラザ1」(JR武蔵溝ノ口駅北口)に設置

※上平間・井田営業所は民間事業者に委託

3 交通事業のあらまし

(令和8年4月1日現在)

市バス運行開始日	昭和25年12月15日
運行区域	川崎市全域（一部横浜市乗入）
普通乗車料金 【市内均一】	現金：大人220円 小児110円 I C：大人220円 小児110円 ※川崎病院線は大人・小児とも100円
車両数	304両（乗合299両 貸切5両）
営業路線数	27路線
運行系統数	158系統
停留所数	479箇所
認可キロ数	185.353（市内182.663km、横浜市内2.69km）キロメートル

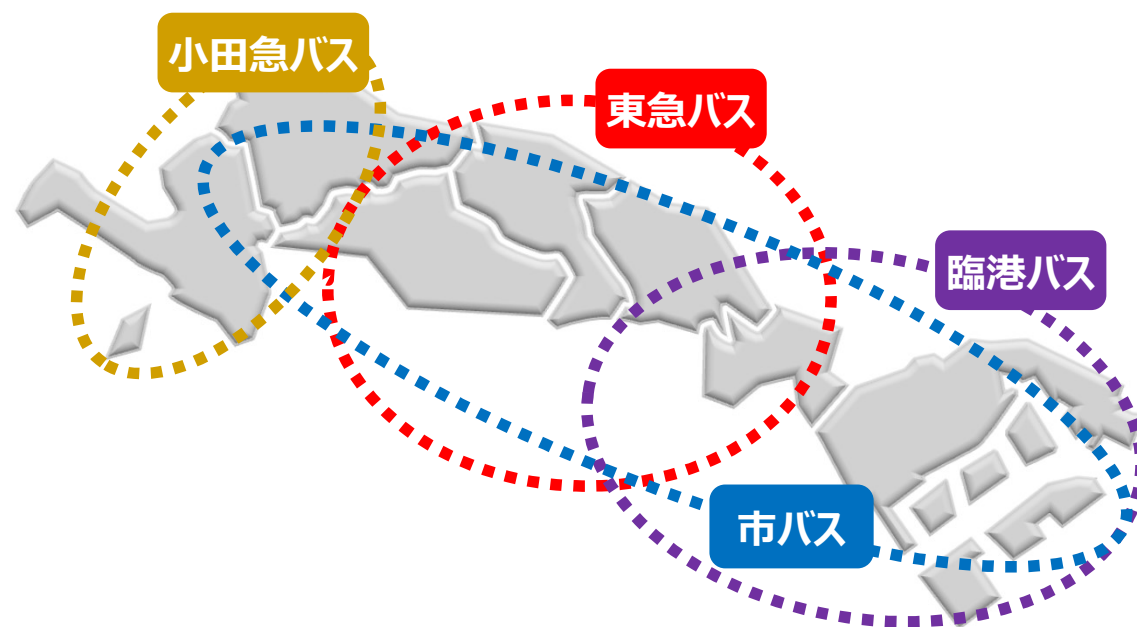
4 市内の路線バスの状況

- 市内の路線バスは、市バスのほか、主に民間バス事業者3社が運行しており、川崎鶴見臨港バスが臨海部地域を、東急バスが東急東横線・田園都市線沿線を、小田急バスが小田急線沿線を主な営業エリアとしている。
- 市バスは、市域全体を営業エリアとして、市内バス事業者における乗車人員の約4割のシェアを有している。

<市内バス事業者の乗車人員（令和6年乗合バス）>

事業者	乗車人員（人）	シェア
市バス	46,774,617	38.7%
臨港バス	34,214,971	28.3%
東急バス	24,384,833	20.2%
小田急バス	15,530,573	12.8%
合計	120,904,994	100.0%

<市内路線バスの営業エリアイメージ>



（資料）『川崎市統計書』から作成

※市バスは年度（4月～3月）、民間バスは年間（1月～12月）

5 営業所の概要



	塩浜営業所	鷺ヶ峰営業所	上平間営業所	井田営業所	計
所在地	川崎区塩浜2-2-1	宮前区菅生ヶ丘41-1	中原区上平間1140	高津区明津98	
営業開始	昭和37.8.7	昭和47.4.24	昭和28.7.22	昭和41.8.1	
車両数 (両)	94	102	52	56	304

※車両数は令和8年4月1日時点

6 運輸実績（令和6年度）

乗合バス事業

区分	数量	1日当たり
期末営業キロ	197.69km	—
停留所数	491箇所	—
運行系統数	169系統	—
営業路線数	28路線	—
営業日数	365日	—
期末在籍車両数	304両	—
延実働車両数	93,272両	256両
実車走行キロ	10,693,762km	29,298km
乗車人員	46,774,617人	128,150人
乗車料収入（税抜）	7,827,115,949円	21,444,153円

貸切バス事業

区分	数量	1日当たり
営業日数	365日	—
期末在籍車両数	5両	—
延実働車両数	449両	1両
実車走行キロ	27,315km	75km
乗車人員	154,209人	422人
乗車料収入（税抜）	38,846,076円	106,428円

※運行系統数には臨時系統の13系統を含む

7 路線別の収支状況

- ・ 営業係数とは

100円の収入を得るのに必要な費用を示す指数で、

100未満であれば黒字、100を超えると赤字であることを示す。

〔令和6年度決算〕

営業係数	路線数	構成比
100 未満 (黒字)	4 路線	14.3%
100 超 (赤字)	24 路線	85.7%
100超 ~ 150未満	19 路線	67.9%
150 以上	5 路線	17.8%
計	28 路線	100.0%

- 営業係数 = (営業費用 ÷ 営業収益) × 100
- 営業費用は、人件費、経費、減価償却費等
- 営業収益は、乗車料収入、広告料収入等

7 路線別の収支状況

〔令和6年度決算〕

	路線名	主要系統	営業収益 (千円)	営業費用 (千円)	営業損益 (千円)	営業係数
1	埠頭線	川崎駅～市営埠頭				
2	東扇島循環線	川崎駅～東扇島循環・東扇島西公園前	1,489,443	1,790,287	△ 300,844	120.2
3	小向線	川崎駅ラゾーナ広場～妙光寺前～上平間	422,418	337,762	84,657	80.0
4	渡田線	川崎駅～J F E 前～塩浜営業所前	399,342	378,993	20,349	94.9
5	水江町線	川崎駅～水江町・塩浜	303,979	329,446	△ 25,467	108.4
6	扇町線	川崎駅～扇町	74,618	86,101	△ 11,483	115.4
7	神明町線	川崎駅ラゾーナ広場～神明町～上平間～小杉駅前	232,294	272,014	△ 39,720	117.1
8	新城線	井田病院～川崎駅西口・新城駅前・横須賀線小杉駅	450,066	592,498	△ 142,432	131.6
9	小倉循環線	川崎駅西口～新川崎駅～江川町	194,276	250,929	△ 56,653	129.2
10	御幸線	川崎駅ラゾーナ広場～幸区役所入口～小杉駅前	424,362	474,809	△ 50,447	111.9
11	等々力線	小杉駅前～溝口駅前	112,924	140,610	△ 27,686	124.5
12	宮内線	小杉駅前～中原駅前	148,934	140,310	8,624	94.2
13	蟹ヶ谷線	小杉駅前～蟹ヶ谷	101,807	124,041	△ 22,234	121.8
14	久末団地線	溝口駅南口・中原駅前～高田町	77,021	122,906	△ 45,885	159.6
15	馬絹線	宮前平駅～新城駅前・井田病院	176,426	194,822	△ 18,396	110.4
16	有馬線	小杉駅前～鷺沼駅	351,416	347,365	4,051	98.8
17	久末線	溝口駅南口～有馬第二団地前	50,839	77,864	△ 27,025	153.2
18	柿生線	溝口駅南口～鷺ヶ峰営業所前・聖マリアンナ医科大学前・新百合丘駅前	1,137,165	1,271,733	△ 134,569	111.8
19	犬蔵線	溝口駅南口～宮前平駅・宮前区役所前・聖マリアンナ医科大学前	699,292	707,797	△ 8,505	101.2
20	五所塚線	登戸駅（生田緑地口）～菅生車庫・宮前区役所前	218,033	289,227	△ 71,194	132.7
21	生田線	生田駅～鷺ヶ峰営業所前・聖マリアンナ医科大学前・宮前平駅・宮前区役所前	299,137	346,843	△ 47,706	115.9
22	久地線	向丘遊園駅南口・登戸駅～溝口駅前～井田営業所前	117,159	173,409	△ 56,249	148.0
23	西菅線	向丘遊園駅南口・登戸駅～城下～西菅団地	98,368	156,404	△ 58,036	159.0
24	カリタス線	鷺ヶ峰営業所前～登戸駅多摩川口～カリタス学園・中野島多摩川住宅	89,888	138,579	△ 48,691	154.2
25	新ゆり線	新百合丘駅前～鷺ヶ峰営業所前	31,684	71,467	△ 39,782	225.6
26	市民プラザ線	溝口駅南口～市民プラザ～梶ヶ谷駅	134,263	158,400	△ 24,137	118.0
27	川崎病院線	川崎駅～（直通）～川崎病院	18,952	27,664	△ 8,712	146.0
28	藤子・F・不二雄 ミュージアム線	登戸駅（生田緑地口）～藤子・F・不二雄ミュージアム	72,556	80,893	△ 8,337	111.5

※千円未満の端数処理により、営業収益－営業費用と営業損益が一致しない場合があります。

8 川崎市バス事業 経営計画

川崎市バス事業 経営計画について

- これまでは、令和元（2019）年度から令和7（2025）年度までを計画期間とする「川崎市バス事業経営戦略プログラム」に基づき、お客様サービスの向上と持続可能な経営を目指して取組を推進
- 乗合バスの輸送人員は、少子化やライフスタイルの変化等による長期的な需要減に加え、新型コロナウイルス感染症の影響等により、輸送人員が大きく減少し、感染症拡大前の水準まで回復していない状況
- 高齢化の進行や人口増加、まちづくりの進展などの事業を取り巻く環境が刻々と変化する中においても、運転手・整備員の確保・育成や営業所施設の老朽化といった課題に的確に対応しながら市バス輸送サービスを持続的に提供し、市民やお客様の大切な交通手段を確保するため、新たな経営計画を策定
- 川崎市総合計画の政策を効果的・効率的に推進するため、総合計画の個別計画として位置付け
- 計画期間は、「川崎市総合計画」との整合を図るため、令和8（2026）年度から令和19（2037）年度までの12年間に設定
- 具体的取組の計画は第1～3期まで、各4年間に設定

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
川崎市 総合計画	基本計画（R8～R19）											
	第4期実施計画（R8～R11）				第5期実施計画（R12～R15）				第6期実施計画（R16～R19）			
	経営計画（R8～R19）											
交通局 経営計画	経営計画（R8～R19）											
	第1期計画（R8～R11）				第2期計画（R12～R15）				第3期計画（R16～R19）			
	経営計画（R8～R19）											

市バス事業を取り巻く環境の変化と課題

● 社会環境の変化

- ①川崎市の人口動向：輸送需要の高まりへの対応や誰もが利用しやすいバス利用環境の整備、安全対策のさらなる充実が必要
- ②まちづくりに合わせた公共交通の整備：都市基盤整備に合わせたバス路線の再編や駅前広場の整備等が必要

● 事業環境の変化

- ①運転手の確保：運転手の確保・育成に向けた取組が必要
- ②整備員の確保：整備員の確保・育成に向けた取組が必要
- ③民間整備事業者の減少：自家整備体制の拡充と技術高度化への対応が必要
- ④営業所施設の整備：営業所の計画的な整備等が必要
- ⑤脱炭素社会の実現に向けた取組：本市の計画と連携した取組が必要
- ⑥交通分野におけるDXの進展：新たなデジタル技術の導入等の検討が必要

計画の基本的な考え方

<経営の基本的な考え方>

- 脱炭素化に向けた取組や、営業所の建替え整備、特別減収対策企業債の償還等、多くの資金が必要となり、厳しい経営状況が見込まれる中、今後においても公共交通事業者としての意義・役割を着実に果たしていくため、市域の路線バスネットワーク形成に寄与しながら、市バスネットワークの効率的・効果的な構築を前提に、安全かつ快適で利用しやすいサービスを提供し、安定した経営基盤の構築に取り組む

<計画の基本方向>

運輸安全マネジメントの推進	安全な輸送サービスを第一の使命とし、お客様に信頼して御利用いただける市バスを目指します。
サービスの推進	お客様に満足いただける利用しやすい質の高いサービスの提供を行うとともに、市民やお客様の大切な足を確保します。
公営交通事業者としての取組	公営交通事業者としての意義・役割に応じた事業運営を図ります。
経営基盤の構築	運輸安全マネジメントやサービスの推進、公営交通事業者としての取組など、これらの市バスサービスを将来にわたって安定的に提供します。

9 令和8年度予算の概要

(単位 千円)

区 分		8 年 度 予 算 額	7 年 度 予 算 額	増 減 額	
				増 減 額	増 減 率 (%)
収益的収支	収 入	10,245,951	10,144,129	101,822	1.00
	支 出	11,008,788	10,593,631	415,157	3.92
	純損益 (税抜き)	△ 926,660	△ 558,020	△368,640	
資本的収支	収 入	2,803,604	3,678,720	△875,116	△23.79
	支 出	3,634,892	4,410,952	△776,060	△17.59
当年度末累積資金過不足額		△ 204,868	19,656	△224,524	

10 主な事業

(1) 運輸安全マネジメントの着実な推進

川崎市バス事業 経営計画
戦略1 運輸安全マネジメントの推進

● 安全対策の強化

・輸送安全委員会の開催

- ▶ 輸送の安全に関する取組状況などの情報を共有し、安全意識の向上を図るため、年4回開催

・経営トップと営業所職員による意見交換の実施

- ▶ 交通事業管理者（交通局長）や安全統括管理者、各課管理職と営業所職員との間で、的確な情報伝達と双方向の意思疎通を図るための意見交換を実施

・運転手実技研修の実施

- ▶ 民間教習所施設を使用して行う実際の運行に則した体験型の運転手実技研修を実施

・添乗観察の実施

- ▶ 外部委託および職長、安全・サービス課職員による添乗観察の結果に基づく個別指導を実施

・ドライブレコーダーとデジタルタコグラフの活用

- ▶ ドライブレコーダー映像により発生した事故等の要因分析等を行い、運転手指導および研修等に活用
- ▶ 通信化したドライブレコーダーを、事故、トラブル等への迅速な対応及び、リアルタイム映像によるバス車内や周辺の状況把握に活用
- ▶ 急加速や急制動などの運行データが記録可能なデジタルタコグラフを活用した指導の実施

・車両へのドライバー異常時対応システム（EDSS）の装備

- ▶ 新規導入のバス車両へ、ドライバー異常時対応システム（EDSS）※を装備し、運転手に不測の事態が生じた場合の安全性を確保

※ 運転手が急病等で運転できなくなった場合に、お客様や運転手が非常ブレーキを操作してバスを緊急停止させる装置



輸送安全委員会



運転手実技研修

10 主な事業

(2) 安全啓発の推進

川崎市バス事業 経営計画
戦略1 運輸安全マネジメントの推進

● 輸送の安全に係る啓発活動の充実

・交通安全・バリアフリー教室の開催

- ▶ 区役所や警察署、学校等の関係機関と連携し、市バス車両を使用した交通安全・バリアフリー教室を開催
- ▶ 交通安全パンフレットを作成し、新小学一年生へ配布

・自転車利用者に向けた啓発チラシの配布

- ▶ 自転車関係する改正道路交通法を自転車利用者に広く周知するため、川崎駅と溝口駅周辺の駐輪場にて、交通管理者と連携した啓発チラシの配布及びバス車内への啓発ポスターの掲出



交通安全・バリアフリー教室

(3) 市バスネットワークの形成

川崎市バス事業 経営計画
戦略2 サービスの推進

● 都市基盤整備に応じた市バスネットワークの形成

・人口の増加や社会変容による通勤等の輸送需要の変化への対応

- ▶ 利用動向を踏まえたダイヤ改正、路線再編の実施

・都市基盤整備の進捗に応じたバスネットワークの検討

- ▶ 臨海部の拠点整備等に合わせた路線の検討
- ▶ 登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区 など

10 主な事業

(4) バス利用環境の整備

川崎市バス事業 経営計画
戦略2 サービスの推進

市バスナビ

- ▶ 市バスナビの運用による運行情報の提供



バス車内停留所案内表示器

- ▶ バス車内における案内情報の提供



バス総合案内表示板

- ▶ 駅改札口付近における運行情報の提供



リアルタイム運行情報の外部提供

- ▶ リアルタイム運行情報を経路検索アプリの運営事業者等が活用しサービス提供



(5) 快適な移動空間の提供

川崎市バス事業 経営計画
戦略2 サービスの推進

● バス停留所施設の整備・維持

- ▶ 停留所施設の清掃等を定期的を実施
- ▶ 劣化の進んでいる上屋の補修、二面式標識等の補修・更新を実施



上屋



二面式標識

10 主な事業

(6) 本市の行政施策との連携

川崎市バス事業 経営計画
戦略3 公営交通事業者としての取組

●公共交通ネットワークの形成に向けた取組等

・自動運転レベル4の実装に向けた取組

- ▶ 令和9年度からの実証実験、令和11年度中のレベル4実装を目指し、路線の選定や運行体制等の検討を実施

(7) 環境対策の推進

川崎市バス事業 経営計画
戦略3 公営交通事業者としての取組

●バス車両等の脱炭素化に向けた取組

- ▶ 2050年の脱炭素社会の実現に向け、電気バス（BEV※）の計画的な導入を推進
- ▶ 川崎未来エナジー株式会社が供給する川崎産の再生可能エネルギー電力を使用した電気バスの運行

※「Battery Electric Vehicle」の略称で、バッテリー式電気自動車のことを指す



電気バス（BEV）

(8) 災害時等への対応

川崎市バス事業 経営計画
戦略3 公営交通事業者としての取組

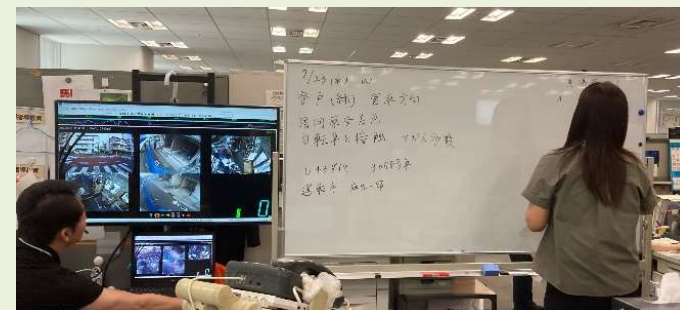
●危機管理体制の強化に向けた取組

・災害時等における実効性のある取組

- ▶ 災害時等を想定した訓練の実施
- ▶ 訓練結果を踏まえた交通局危機管理対応マニュアル等の改訂

・バス非常時に備えた取組

- ▶ 本局と営業所間における情報収集・伝達のシミュレーションを行う重大事故通報訓練を実施
- ▶ 非常用連絡無線機を活用して、運行指示や運行に係る情報収集を実施



重大事故通報訓練

10 主な事業

(9) 安定した経営基盤の確保

川崎市バス事業 経営計画
戦略4 経営基盤の構築

● 持続可能な経営の推進

・営業所の管理委託の継続

- ▶ 上平間営業所及び井田営業所の管理委託を継続（令和4年度から令和8年度までの5年間）
- ▶ 令和9年度から令和13年度までの次期営業所管理委託における受託事業者の決定

・料金改定に向けた取組

- ▶ 持続可能な事業運営を図り、将来にわたって市バス輸送サービスを安定的に提供していくため、乗車料金の改定を検討

・総人件費の抑制

- ▶ 働き方・仕事の進め方改革の推進による長時間勤務の是正（時間外勤務の縮減・平準化を含めた総人件費の抑制）

● 安定的な事業基盤を支える人材の確保

- ▶ 大型自動車第二種免許を保有していない若年層の採用に向けた運転手（養成枠）採用選考の通年募集開始
- ▶ S P I 3の導入や年齢上限の拡大など、運転手採用選考の見直し（令和6年度から）
- ▶ 整備士資格を取得していない若年層の採用に向けた整備員（養成枠）採用選考の継続実施
- ▶ 大型自動車第二種免許を保有しているバス乗務経験のない方に向けた運転手（未経験者枠）採用選考の継続実施
- ▶ 交通局を出産・育児・介護等で退職した方に向けてジョブ・リターン制度による採用選考の継続実施

● 職員の健康管理

- ▶ 睡眠時無呼吸症候群（S A S）のスクリーニング検査の実施
- ▶ 脳健診の実施
- ▶ 心臓疾患・大血管疾患対策検査の実施
- ▶ 眼科健診の実施

● 営業所の計画的整備

- ▶ 塩浜営業所の建替えに向けた基本設計等の実施
- ▶ 鷺ヶ峰営業所の再整備について検討
- ▶ 鷺ヶ峰営業所予備電源設備改修工事



職員採用パンフレット

10 主な事業

(10) プロモーションの推進

川崎市バス事業 経営計画
戦略4 経営基盤の構築

<市バス広報>

・市バス公式X

- ▶ 市バスイベント情報、かわさきノルフィンの情報などのほか、事故や災害時の路線運行情報などを随時発信

・市バスホームページ

- ▶ ダイヤ改正、運行系統変更など重要な情報のほか、お楽しみ情報などを発信

・市バスマップ

- ▶ 市バス全路線の路線図をはじめ、主要駅の乗り場案内、料金や各種制度の案内などを掲載



かわさき市バスマップ

<ホームタウンスポーツチームと協働した取組>

・川崎フロンターレ直行便

- ▶ ホームゲーム開催時に、小杉駅から等々力陸上競技場前まで直行便を運行
 - ※ 運転手がユニフォームを着用
 - ※ 川崎フロンターレ選手による車内アナウンスを実施



運転手のユニフォーム着用